

馬つぎ ゆり村 松林丘山ニテ 御中飯ちゆうはん

七ツ前

きみいでら

紀三井寺門前御着、兵庫屋何某御宿、なにがし

(紀三井寺)

即日観音へ御参詣、七ツ半時及薄暮御帰宿はくぼにおよび

いわで

岩出より当地、此日凡三里半尤五十町壹里この およそ り もつとも ちやういち

見下せば秋風多し紀三井寺 公

によつほりと霧のうへなる紀三井寺 可良

朝なきやきりふらなむ紀三井寺 芝蘭

松山の紅葉をふるう朝の鐘 公

供侍のさわぎ立たるあられ哉 芝蘭

見上れハ紅葉錦や紀三井寺 柳眉

旅館曙光秋嶺分 周行

楼台画出去来雲 同

松涛伝到梵音響 惟貞

只是丹楓朝日薰 公

紀三井寺観音磴道之半 石碑

之写のうつし

とうどうのなかば

裏二 横二

自銘 寛政九年丁巳一陽喜節門人某等

六十有七半醉

半醒告老達

観花白松青

置之

帆ハ白し

時雨るゝや

時雨ぬ沖の

槐亭

尾花庵

たゞ言ハ

鳴まし和歌の

浦千とり

寛政十二庚寅

十月十四日

萍左坊墓

於浪花写

しもつて

見上れハ 紀三井寺

さくら

中不讓詩歌

風羅談笑微

末代幻住生涯

松槐亭誌

芭蕉翁